環境＆成長…

原子力エネルギー

◆106◆

第9部 激動の97年 ④

企業総合

常識的な安全基準を

外国メーカー含め競争入札に

日本原子力産業会議 副会長 森一久氏

≪もり・かずひさ≫ 昭和23年京大理卒。中央公論社、電源開発を経て31年、日本原子力産業会議へ。平成8年6月から副会長。昭和31年の原子力委員会設置以来、東海再処理工場の建設、原子力船「むつ」騒動、CANDU炉論争などに関わり、原子力の〝生き証人〟とも。広島県出身、71歳。

歪みの表れ

――原子力開発に対する、かつてない不信感が渦巻いています。動力炉・核燃料開発事業団（動燃）の事故・不祥事の背景にあるものは何でしょう。

「これまで有効に機能してきた日本型システムの歪みが、次々と表面化している。北海道拓殖銀行や山一証券の経営破たん、有力企業の相次ぐ総会屋汚染…。いずれも歪みの表れだが、それがよりによって原子力に出てしまった。原子力は初めから自主・民主・公開の三原則にのっとり、時代を先取りする事業だったはずなのに、その中核である動燃に事故・不祥事が相次いだ。じくじたるものがある。結局、動燃は〝関東軍〟になってしまったということだろう」

――動燃が関東軍とは。

「旧帝国陸軍の関東軍のように、独善的で閉鎖的な組織になったということだ。高速増殖炉（FBR）原型炉『もんじゅ』のナトリウム漏れ事故は本来、大した事故ではない。フランスなど漏洩を繰り返しながら、技術を蓄積してきた。むしろ、動燃は優秀で、実験炉『常陽』は十八年間、一度もナトリウムを漏らしておらず、こんな原子炉は世界中にない。それが慢心を生んだ。動燃は『日本は技術がいいから大丈夫。日本ではナトリウム漏れは起きない』と広言していたという。事故は大したことなかったが、そういう動燃への疑問が社会の批判として一気に吹き出たのだと思う」

科学的に研究

――原子力委員会はFBRの開発継続を打ち出したものの、実用化計画は白紙撤回です。「もんじゅ」の次の実証炉の建設主体である電力業界も積極的とはいえません。

「電力業界がFBRに及び腰なのは、ひとつは青森県六ケ所村の核燃料再処理工場に原因がある。当初の建設予算七千五百億円が三兆円近くにも膨らめば、恐れをなしてFBRにまで手を出す気にはなれない。再処理は本来、化学工学の事業だ。電気工学しか知らない電力会社の門外漢が経営すること自体、無理があるが、安全性については学者の議論に任せきりになっている。ある人が『工場に大型飛行機が直角に落ちたら…』と発言した途端、天井コンクリートが一・二㍍も厚くなるような、過剰スペックの仕組みがある限り、原子力施設の建設費は安くならない。放射能をむやみに怖がるのではなく、人体への影響を科学的に研究し、常識的な安全基準が必要なのに、そういう議論は行われない」

――原子力開発の〝護送船団方式〟を改めるべき、という指摘があります。

「欧米をキャッチアップする時代は、護送船団方式が有効だった。長計（原子力開発利用長期計画）に基づいて動燃が研究開発し、仕事を日立製作所や東芝、三菱重工業などに割り振る。それで、日本の原子力技術は力をつけてきた。しかし、今後は外国メーカーを含めた競争入札を導入し、効率化、高度化を図るべきだ。そうでなければ、施工者のモラルも上がらない。『もんじゅ』のナトリウム配管を担当した東芝など、『本当に恥ずかしいものをつくった。今後は受注を自粛する』と表明すれば、世間の見方も変わっていたはずだ。土光（敏夫・東芝元社長、経団連元会長）さんが生きていれば…、の感が深い」

経営者改革

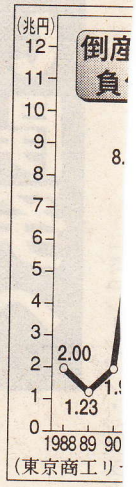
――原子力産業は新生・動燃をどう支…すか。

「歌の文句で『こんな女に誰…』ということだ。動…式は女性の心…る。事故のビデ…り、嘘の報告を…分をよく見せよ…動は、ある意味…しく、政府や国…たい、嫌われた…いう心理の裏返…改革は〝五箇条…のような行動規…与えることでは…な天下りをやめ…シップのある経…て、動燃自らに…性をつくらせる…も電力会社も責…も、膾（なます）…責任を回避して…子力の信頼回復…ない」

（原子力特…

次回は18日…掲載します。

（総延長約三万キロ）の北側、西側区間の建設を共同受注した。受注額は約五億ドル（約六百二十二億円）で、約二万五〇〇〇キロ相当…九月の完成を予定している。日本からはプロジェクトのコンソーシアムメンバーとしてKDD、NTT国際ネットワークが加わって…日本（千葉県千倉町）、米国の六カ所が予定されている。



東京商工リサーチの調査では、倒産企業の負債総額は十月までに約九兆三千百五十億円に達した。さら…だ。

今年の倒産の特徴は、東京証券取引所第一部上場の京樽が一月に会社更生法適…す。

九八年四月以…正措置を控えた…（帝国ラ…